

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひきめの森

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0390200293 | | |
| 法人名 | 株式会社 JAライフサポート | | |
| 事業所名 | グループホーム ひきめの森 | | |
| 所在地 | 〒028-2102 岩手県宮古市墓目第5地割48番2 | | |
| 自己評価作成日 | 年月日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年12月16日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

連携している訪問看護の協力を得ながら、歩行訓練の強化に取り組んでいる。開所当時から利用者様で現在も入所されている利用者様が、年齢が高齢になってきており、立ち上がりが困難になっていたり、膝の痛みを訴えたりしていることから下肢筋力の強化を行っている。そのことで転倒の危険が少なくなったり、膝の痛みが少なくなったりすることを目指している。平行棒を利用した歩行訓練を利用者様ごとに設定し、訪問看護の作業療法士さんから定期的に歩行状態を見て頂いた上で見直しを行っている。また玄関の所に季節の花を植えることで花を見ながら落ち着いた生活が出来るように心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地区の中心部にあり、近くにある同法人のグループホームや市内のデイサービスと連携を取りながら、運営推進会議や身体拘束に関する委員会を開催しているほか、行事や研修会の共同実施、業務の相互支援など、効果的な介護サービスを提供している。運営にあたっては、運営推進会議の意見や助言、利用者や家族の要望に沿った対応のほか、職員の提案を受け入れ、新型コロナウイルス感染症対策、家族との面会の対応、事故防止のため床の張替えなど、業務の改善と設備の充実に活かしている。また、訪問看護や訪問診療による医師と看護師の指導や支援を受けて、家族の意向に沿った終末期ケアや事業所内での看取りを行い、利用者と家族の信頼を得ている。さらに、職員の知識と能力向上のため、各種研修会の開催や資格取得の支援に取り組み、より良い介護サービスの提供に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 | | |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年10月29日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念については、開所当時から行っている理念である。理念については、共有することが出来ているが慣れが出てきているのではないかと。投げやりになっている部分もあるように思われる。 | 開所当初の職員で定めた理念「人・思・心・楽しく共に」を施設内へ掲示し、朝礼などでも確認している。理念を共有し、利用者を人として尊重し、利用者の思いを汲み取り、受け入れ、利用者本意の介護サービスを提供するよう取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 昨年度からコロナウイルスの蔓延により、地域住民との交流を行うことが出来ない。但し地域の中学生が墓目太鼓の披露する機会がないという事で、グループホーム花*花で披露させて頂きたいというお話が有り出かけている。 | コロナ禍のため、例年事業所が実施している地域の子供も参加する餅つき大会や地域住民も参加する夏場のバーベキュー大会は開催できなかったが、利用者が近所を散歩する時には地域の人達から声を掛けられたり、また野菜の差し入れなどもあり、地域との繋がりは維持されている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 以前は、地域の中学生が福祉体験という事で当グループホームに出かけてきているが、今回は、コロナにより行うことが出来ない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の中で、地域の住民の方に災害や火災等の緊急事態が起きた場合の協力の呼びかけを行ったりしている。夜間の時間帯に火災が起きた場合の地域の方の協力が必要なこと等あるため参加されている区長さんを通して地域の方に協力をお願いしている。 | コロナ禍のため家族への参加を呼び掛けていないが、運営会推進会議を近隣にある同一法人のグループホームと共同で2ヵ月毎に開催し、新型コロナウイルス感染症対策、看取り対応、災害時の地域支援などについて話し合い、そこでの助言を業務に活かしている。ゲストとして駐在所の警察官にも参加してもらい、交通安全対策、緊急時の連絡などについて助言を受けたりしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 今回は、利用者様のコロナウイルス感染予防接種をグループホームで対応するために市役所との連携を行いスムーズに行うことが出来るように協力をお願いしている。 | 運営推進会議に市介護保険課の担当者や地域包括支援センターの職員の参加を得て、各種行政情報が提供されている。新型コロナウイルス感染症の予防接種について相談したり、要介護認定申請などについて指導を受けたりして、関係機関との協力関係を築いている。 | |

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 当事業所では、身体拘束を3要素がそろわない限り行わない事を重要事項説明書に唱っている。 立ち上がりが思う様に出来ない利用者様が夜間にベッドから一人で立ち上がり、転倒し骨折してしまった事例があるが、拘束せず安全にできる方法を模索しながら現在行っている。(マットをベッド下に敷いたりしている。) | 近隣にある同一法人のグループホームと共同で身体拘束に関する委員会を3か月毎に開催し、身体拘束をしないケアについて話し合い、日々の実践に活かしている。職員会議や勉強会で理解を深めているほか、利用者への声掛けは職員間で注意し合っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 虐待を行わない、虐待防止の徹底を行っており、入浴時や着替えを行った際の身体等の観察、又は、利用者様との信頼関係を築く等、変化を見つければ出来るよう心掛けている。変化が見られた際には、朝礼や職員会議等で職員に伝達し連携が取れるようにしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 当グループホーム内には、宮古市内に身内が居ない方が2名入所されていて、成年後見人の利用をされている。入所しているが資金的にぎりぎりであるため、成年後見人と相談しながら利用を心掛けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | グループホームに入所する際は、重要事項説明書内容や契約事項について説明を行い契約書に署名をお願いしている。また損害賠償の内容についても詳しく説明することで安心して契約をして頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 昨年は、コロナウイルスの蔓延により運営推進会議へ利用者様のご家族が参加することが出来ないという事が多く見られている。 食事については、利用者様が食べたいと思っているものを食事の献立の中に入れるようにしている。 | 利用者の要望を聴き取り、外出、食事、お手伝いなど、利用者の意向に沿った対応をしている。また、家族の面会や受診同行の際に、家族の意見を聴いている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員から、看取りを行った際に主治医が直ぐに来られない場合には、警察が入るといふ事に不安が多くあるという意見が出され、運営推進会議の際に直近の駐在所の方をお呼びしグループホームの状況等の説明を行い、職員の不安とならない様話し合いを行っている。 | 職員会議や朝礼、申し送りノートなどにより、職員の意見や提案を聴いており、最近では、事故防止のための床マットの張り替え、トイレのウォシュレットの設置、大型エアコンの増設などについて職員から提案があり、これらを具体化している。また、要望のあった育児に配慮した勤務日時の調整、資格取得の支援なども行っている。 | |

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員からの希望でトイレにウォシュレットがないが取り付けてほしい。BSを入れてほしい。月給制にしてほしい等の意見があったが、その都度上司と相談し出来るだけ希望を取り入れることが出来るようにしている。また職員の環境や身体状況を踏まえながら、勤務時間等の調整を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人外での研修の機会の確保が難しい状況になっているが、当グループホームに訪問されている訪問看護の協力を得ながら事業所内での研修を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 今年度は、事業所内で出来る勉強会を取り入れたり、又は、同事業所のデイサービスと協力しネットワークを通じ会議や勉強会を行っている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | グループホームの申込者や利用希望のあった利用者や利用者家族には面会を行い、グループホームの環境や目的についてお話し、利用者や利用者家族が不安に思ったまま入所とならないように対応を行っている。また利用者家族には、入所前に本人の状況を出来るだけ聞き漏らしの無い様に対応している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用者や利用者家族の生活環境等をお聞きすることや利用者の生活状況、今までしてきた職歴等をお聞きしている。申込時や契約時に不安に思っている事をお聞きし解決に努めるようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 当グループホームに申し込みをし待機している方々の状況を把握し今グループホームを利用することが最善であるのかどうか見極めるように努力している。前回身障で利用している利用者の方が、当グループホームに申し込みをしており身障が適切であると判断したが、夜間に不安が残ってきたため入所となっている。 | | |

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご家族と常に連絡できる関係を築き、利用者様に変化や体調等に変化が見られた際には直ぐに連絡している。グループホームに入所されてから長くなり、体力が落ちてしまっているため、今までやってきている手伝いが出来なくなった利用者様に対しては、利用者様が出来るお手伝いをお願いしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナの蔓延により来所して頂ける機会が少なくなっているが、出来るだけ関係がより良い関係が続くように心かけている。遠方にいらっしゃる親戚の方には、本人から定期的にお中元等を送ったりしている方もいる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで生活してきた環境や人間関係を極力変えないように努め、面会して頂ける様にお話をしている。今まで使用していた馴染みの物を部屋に持ち込んで頂くことで本人の生活がより落ち着いて生活出来るように工夫を行っている。ご自分の大切にしている人形をも持ち込んでいる方もいる。 | 周辺の散歩や産直での買い物などでの交流を通し、地域住民との関係を大切にしているが、コロナ禍のため、外部の人との面会は制限している。家族との面会も、玄関での対応としたほか、お盆の帰宅も我慢してもらった。遠方の家族には、電話等の取次ぎ支援をしている。家族には、施設の様子を知らせる「かわら版」を作成して送付している。 | 以前行っていた、居室担当者が利用者ごとに生活の状況を記載したお知らせの作成と家族への送付について、面会が容易でない状況にある中で、この取り組みの再開を検討することが望まれる。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の生活状況や誰と誰が話をしていることが多いのか等職員同士で情報共有を行っている。何人かの利用者様が同じ訴えが何度も聞かれ、他利用者が不穏になってしまうこともあるが、職員同士どのように対応しているのか共有することで対応することが出来ている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者の退所後や入院中の状況を関係機関に連絡を取りながら情報共有に努めている。また退所後に利用者が困ることがない様に同事業所の居宅や関係機関と情報共有し支援の継続を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員と利用者との信頼関係を保つことにより、利用者からの医師や希望を聞くように努めている。そのことで本人の希望を盛り込んだプラン作りが心にかけている。 | 職員は、利用者に寄り添って話を聴くようにしており、食事や風呂、散歩、お手伝いなどの要望に応えている。骨折した利用者の歩けるようになりたいという希望には、介護計画に盛り込んでリハビリに取り組んだり、また、遠方の姉と面会したいという希望者には、同行支援も行なっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所の申し込みがあった際には、本人や家族関係、関係機関の方と面会を実施し、状態の把握に努めている。出来るだけ生活歴や趣味、今までしてきた職歴、ご家族や本人の意向を聞くようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様がいつも通りに生活されているか、夜間等は、ぐっすり寝ることが出来ているのか、排泄は、上手く行うことが出来ているのか、毎日の朝礼や職員会議で情報共有を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 現在は、入所されている利用者様の身体機能の低下が見られているため、転倒などの事故が起きやすくなっている。その現状を踏まえ、ホールに平行棒を設置し連携している訪問看護の作業療法士の方の協力を得ながら歩行訓練を行っている。定期的に訓練の内容の見直しを行い施設計画の中に入れながら、毎日行う様にしている。少しずつ、歩行状態がよくなっていることを利用者自身も喜ばれ、率先して行うことが出来ている。 | 介護計画は、居室担当者が記入している利用者の生活状況の記録により毎月モニタリングを行い、職員会議で話し合った評価を踏まえて、計画作成担当者が再度アセスメントをして、計画を見直している。その際には、家族の意見や利用者の希望を聴いているほか、医師や看護師の指示や助言も計画に反映させている。コロナ禍で外出の機会が少なくなったこともあり、下肢機能の低下による転倒の危険性があったことから、作業療法士の協力の下で平行棒での歩行訓練を計画に組み入れて実施したところ、その改善が見られる利用者もいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者担当を決め、毎月のモニタリングを実施している。その内容を踏まえながら、利用者がより良い生活が出来るように話し合いを行っている。 | | |

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 介護職員の特技を生かし、毎月壁紙装飾を利用者様と一緒にしている。その際には、利用者全員が参加出来るように工夫を行っている。今年も梅干しを利用者様と一緒に漬けており、職員が利用者様に聞きながら何とかつけることが出来ており、食べることを楽しみにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 前は、ブルーベリー狩りを行ったが、今年はあまり実りが良くなかったためか行うことが出来ない。また外出をする機会が減っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前にかかりつけ医としていた病院等を変更せず通院できるようにしている。そのことで利用者が安心して生活できるように支援を行っている。 | 入居前のかかりつけ医を受診している。ただし看取りとなる場合には、家族の同意を得て協力医療機関に変更している。受診の際には家族の付き添いを基本としているが、家族の要望等により職員が付き添うこともあり、また、精神科などには職員が同行している。受診の際には、定期的に訪れる訪問看護師の助言を得ているほか、受診結果については、家族と職員が情報を共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者様の中で今回乳癌が見つかった利用者様がいますが、訪問看護に協力して頂くことでスムーズに手術までたどり着くことが出来ている。退院後の処置も訪問看護と協力しながら行うことが出来ている。 転倒した利用者様が腕を脱臼し、訓練を行うことが必要となったが、協力しながら行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 乳癌で入院された利用者様については、本人に病状の話をする際、統合失調症の既往も有るため、関係医療機関(主治医)に連絡を行い、どのタイミングで話をしたら良いかなど相談を行っている。また手術後の退院に備えて、医療機関と連絡を取りながら退院時に備えている。 | | |

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 当グループホームでは、ガン末期の宣告を受けた利用者様の看取りを行っており、その際には、ご家族、担当医師、訪問看護、介護職員との関係を密にし対応に当たっている。担当医師から受けた指示の内容を訪問看護介護職員とともに情報交換を行い今後の方針を決定している。近々に看取りを行った利用者様については、ご家族が遠方にある為、亡くなられた後、ご家族とは面会することが出来ず対応に苦慮している。 | 入居の際に、終末期の対応や施設内での看取りについて説明し同意を得ている。状態の変化に応じ、再度家族等の意向を確認し、訪問看護師や医師の指示、指導により、終末期のケアや事業所内での看取りを行っている。看取り後には、振り返りを行う職員研修会の実施や看取りを行った職員のグリーフケアも行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 日中は、急変等が発生した場合には、管理者に報告し、状態を確認したうえで訪問看護に連絡し指示をいただいている。夜間については、昨年度から夜勤者に加え宿直を一人置くようになっている。転倒や身体の急変があった場合には、夜勤者は、宿直者に応援をお願いし、管理者に報告を行う。その後訪問看護に指示を仰ぎ救急車等要請する必要があるのか判断することになっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 近隣住民協力の頂きながら、避難訓練を行う予定であったが、コロナ感染の影響により行うことが出来ていない。グループホーム内での避難訓練となっている。夜間訓練、日中帯想定の避難訓練を行っている。7月末には、大雨により避難指示が出ており、グループホーム花*花へ避難を行っている。 | 火災と水害を想定した避難訓練を実施しており、火災訓練は夜間想定訓練を1回、消防署員立会いの日中訓練を1回行った。過去に実際に浸水被害があった地域内にあることから、避難場所を近隣の高台にある同法人のグループホームとしており、備蓄食品、各機材も同ホームが保管している。 | 災害が発生した時に確実に地域から協力をいただけるよう、地域の自主防災組織などの支援体制に組み入れてもらうことなどについて、地域の方々と話し合われることが望ましい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一日過ごされている中で、1人で過ごす時間を大切にしよう職員、利用者共に心掛けている。一人で部屋にいるときには、一人で新聞を読んだり、好きなテレビを見る時間を設けている。利用者様一人一人の尊厳を重視し職員の言葉遣いに気を付けている。 | 利用者の居室へ入室する際はノックしたり、トイレ利用時のプライバシーを確保したり、利用者への呼びかけで誇りを損ねないようにするなど、日常の対応に注意を払っている。また、利用者が一人で過ごす時間を大切に、思い思いに趣味を楽しんだり、休憩したりできるように見守っている。職員は、経験豊富な人生の先輩としての利用者から梅干や糠漬けの作り方を教えてもらったりしている。 | |

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様本人が気を使わず自分の意思が表現できるよう職員が利用者の表情や言葉遣いに注意し利用者に声掛けを行うようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入所前に、入所される利用者様が普段どのように生活されてきたのか本人やご家族関係機関等に情報提供をお願いしている。出来る限り生活環境を乱さないように心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入所前に利用されていた美容室等には、そのまま継続して行って頂くように、ご家族に協力をお願いしている。最近近所で利用していた美容室が、閉じてしまっているため、対応に困っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様のそれぞれできる事を手伝って頂いている。食事前のおしぼり畳、盛り付け、食後の食器拭き、食器の片づけ、テーブル拭き等をお願いしている。誕生日会には、対象の利用者様の好みに合わせた献立にしている。季節の物を皆さんの前で見て頂き、一緒に調理の下準備をして頂く等しながら食事をして頂いている。 | 食事メニューは、職員が利用者の希望などを考慮して作成している。食材は、施設の菜園で栽培した野菜のほか、産直や業者から購入している。調理は、利用者に炒め物や包丁切などのお手伝いをしてもらって、一緒に行っている。利用者の希望に応じて、あら汁やスイトンを作ったり、敬老会、誕生日などでは、テンプラ、サシミなども提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の献立、食事摂取量や水分摂取量を利用者別に記入し、職員同士が把握することで必要な摂取量を摂ることが出来るように心掛けている。通院した際の血液検査の結果も把握しながら、糖分、塩分、水分量の制限が必要な利用者様に関しては、食事提供等の際に調整を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 全利用者様に毎食後の歯磨きやうがい等を実践し、歯磨きが出来ない利用者様については、スポンジ等を使用し介助を行っている。また現在できている利用者様に関しても、利用者様が傷つからないように声掛けを行いながら確認を行っている。 | | |

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の記録を毎日行い、時間、排泄量、形態等が把握出来るようにしている。排泄できていない利用者様に関しては、訪問看護師が訪問した際に報告を行い、排便コントロールを行っている。利用者一人に関しては、慢性的な便秘傾向にあり、何日に一回排便がなければ薬を服用して頂くなど決めながら行っている。 | 排泄チェック表と利用者の仕草などから、適時にトイレへ誘導している。自分でトイレを使用できる利用者に対しても、尿パットの確認などを行っている。夜間にポータブルトイレを使用していたが、普通にトイレを利用できるようになった利用者もいる。また、便秘が続く利用者に対しては、訪問看護師による排泄支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 普段から便秘薬を服用している利用者様は多く見られているが、朝にヨーグルトを食べたり、食物繊維のある食材をとる様に心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 現在は、一人一人が曜日を決めて入浴して頂くようにしているが、利用者様に声掛けし、利用者様が入りたいとの希望が有った際には入浴して頂くように心掛けている。 | 基本的には週2回午後入浴で、1日3名としているが、夏場は希望により夕方入浴にも対応している。入浴剤、ゆず湯などで、リラックスして入浴できるようにし、歌を唄って楽しんでいる利用者もいる。入浴時間は、職員と利用者がゆっくりと話しができる機会となっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼夜逆転の傾向にあり、夜間に起きてしまう利用者様もいるが、出来るだけ日中起きて身体を動かす機会が多くなるようにしている。認知症の周辺症状進み、夜間に大きな声で職員を何度も呼ぶ利用者様がいる為、対応に苦慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者様の普段の生活状況に変化がないか、服薬により体調変化が見られていないか等、職員同士注意観察を行っている。服薬を確実に間違いなく行って頂ける様に、職員が仕訳を行い、利用者様に手渡しし確実に服薬したことを確認することで、服薬を確実に行うことが出来ている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎朝起床時に、皆さんとお茶を飲む時間を設けており、コーヒーやお茶を飲むことを楽しみに起きてこられる利用者様もいる。何気ないお話をすることで落ち着いている利用者様もいらっしゃる様子有り。利用者様それぞれに役割を持っていただき、食器を拭く、食器を片付ける、テーブルを拭く等の一連の動作を振り分けながら行っている。 | | |

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム ひきめの森

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 外出する機会が少なくなっている現状にあり、気分転換を行うことができる事が少なくなっている。近所まで散歩に出かけるようにしているが、車いすやシルバーカーを使用している方が多い為長い距離を歩くことが出来ていない。今回乳がんの手術をされた方に関しては、後見人の方の協力を得ながら実の姉に合いに行くために同行している。 | コロナ禍で外出する機会が少なくなっているが、天気の良い日は、周辺の散歩とウッドデッキでお茶会を行っているほか、畑作業や前庭の水遣りをしている利用者もいる。散歩はシルバーカーを利用し、1回3名が交代で行っており、歩行が困難な利用者は車椅子で参加している。春にはお花見にマイクロバスで出かけ、秋にも紅葉狩りのドライブを予定している。家族とお彼岸の墓参りをした利用者もいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者様が現金を少額ではあるが、所持しており利用者様の希望が有った際や、職員と買い物に出かける機会が有った際には、使って頂ける様にしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | 余り電話をかけたりできる利用者様は少ないが、電話をかけたいと申し出の有った利用者様に関しては、電話をお貸しし、掛けて頂くようにしている。 手紙等を書く機会が少なくなっているが、年末の年賀状等を書いて頂くように支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 施設内のホールには、利用者が見える壁面に季節ごとの装飾を行う様にし季節感を味わえるようにしている。 また自室の前にはそれぞれ自分の部屋だとわかるようにキャラクターの絵を貼っている。 | クリーム色の壁と淡い色調の木で囲まれた広いロビーは、引き戸からの光により明るく、開放感があり、花が生けられ、壁には利用者と職員が一緒に作った季節の作品が飾られている。利用者は、食卓用テーブル、ソファなどで、テレビを見たり、新聞を読んだり、折り紙をしたりして、思い思いに寛いでいる。また、職員の声かけで、昔話や歌、ゲームなどでも楽しんでいる。大型のエアコンと床暖房で室温が適正に管理されており、快適な環境となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 会話の合う利用者様同士と一緒に座ることが出来るよう、座る場所を設定している。長い時間座っていることが多くなっているため、低反発の座布団を準備したりしながら対応している。 | | |

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひきめの森

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている | 入所時の説明の段階で、自室は、利用者様本人 が、好きなように配置装飾してよいと説明してい る。グループホーム内で行った誕生会の際の色 紙等をはったり、テレビが一人で見たいという方 には、テレビを置いて頂ける様にしている。 | 居室には床暖房が設置されているほか、夏場 は、戸を開け、暖簾を下げて、増設した大型エア コンからの送風で快適な室温を確保している。テ レビ、人形、化粧品、位牌など、利用者の馴染み のものが持ち込まれ、それぞれの意向に沿った 居心地のよい部屋となっている。また利用者の 要望により、お位牌へのお供えご飯の提供もして いる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している | 利用者一人一人が出来ることを把握し、本人の 意思を尊重しながら、無理することなくできる事 をお願いしている。その際には、職員が付くこと によって、新しくできる事を発見できるように心が けている。 | | |